

トラベル・ミステリーの第「事件」(五月一日発行)の両
 一人者、西村京太郎さん(ミ)方に収録されている。
 〓京都市伏見区〓の短編集が、西村さんによると「振り子
 事件」大手出版社の光文社と「電車殺人事件」は昨年十月
 講談社から相次いで出版された。「オール読物」に掲載され
 たが、西村さんの手廻いから、その後、光文社と講談社
 同一作品が両方に掲載されるから短編集の出版計画がほぼ
 という珍しいミスが七日わが同時に出され、西村さんは
 った。西村さんもミスを認 それぞれの編集部にて作品の選
 め、「読者におわびしたい」定を任せた。
 と話している。 ところが講談社が当初収録
 預け掲載されたのは「振り子」を予定していた別の短編一編
 子電車殺人事件」という短 について、その作品を初掲載
 編。光文社刊「高原鉄道殺人 した雑誌出版社から「当社で
 事件」(四月五日発行)と編 も西村さんの作品編を計画し
 講談社刊「し待急前子車殺人 ている」と掲載を断ってき

西村京太郎さんミス テリー

振り子電車殺人事件

同じ作品が、2社の短編集に



西村京太郎氏

ため、講談社ではその代わ て、初めて重複掲載に気がつ
 りに「振り子電車殺人事件」 たが、初版十二万冊がすでに
 を掲載することにし、西村さ 印刷されており、出版を中止
 できなかったという。
 先に出版した光文社では 者には、おわびの手紙を出す
 「講談社に同一作品が収録さ ようお願ひしている」と恐
 れたと聞かされ大驚いた。 編、できれば再版は出したく
 うちが先に掲載の手続をし ないと意旨だ。
 たので問題はない。出版界で 西村さんは四十年「天竺の
 は例のないケース」(カッパ 脚版)で江戸川乱歩賞を受
 ノベルス編集部)というが、 賞。特に「夜台待急殺人事
 抗辯する予定はない。 件」「夜行列車殺人事件」
 校正刷りを見ないで講談社 (いずれも光文社刊)など、
 にも「掲載OK」を出してし ほぼ同時に企画を進めていた
 まったという。西村さんは ため、同じ作品が載ることにな
 「し待急」の見本を見 気づかなかった。いままでに になり、ベストセラーの常連

五、六人から問い合わせがあ
 り、おわびしている。再版に
 ついては決めている(文
 芸第二報)としている。